

西田幾多郎 (にしだ・きたろう) 1870~1945

哲学者 ~西田哲学と京都学派の創始者~

出生 1870年(明治3)5月19日、石川県河北郡宇ノ気町に富裕な地主の長男として生まれる。

履歴 東京帝国大学哲学科選科卒業(1894)。第四高等学校(現金沢大学)教授(1899~1909)となる。学習院教授(1909)、翌年に京都大学助教授(1910~1913)を経て教授(1913~1928)に就任。

事績 京都大学哲学科の中心的存在として田辺元とともに、京都学派を形成し、独創的な西田哲学(左右田喜一郎が1925年に命名)を創設し、青年・知識人に多大な影響を与えた。1940年には哲学者として初めて文化勲章を受章している。

評価 西田哲学は日本における最初の独創的な哲学体系であった。自己を世界の外においた従来の西欧哲学と異なり、自己を世界の中で考え、世界と自己とをその成立の根底から把握し、もっとも深い意味で文化を解明した。この点に西田哲学の独創性があった(竹内良知)。それゆえ、近年、西田哲学のなかに、科学技術を支えているものの見方に対して根本的な反省を迫るものがある、として、日本学研究の伝統をもつアメリカやドイツだけでなく、中国やスペインなどにも研究や関心が広がっている。一方、田辺元による、西田哲学はなお観想の立場であって行的自覚にまで徹底していない、という批判があり、また戦後西田を戦争協力者として批判する者もいる。

代表作

『善の研究』 純粹経験(キワート参照)という西田の基本概念を導き出した。「善の」というタイトル付与の理由は、善が人生の中心問題であり、また終結であると考えたことによる。明治以後邦人のものした最初の、また唯一の哲学書という評価があった。全集1に収録。

『自覚における直観と反省』 『善の研究』において自己の根本思想を把握し得た西田が、当時の最新の代表的西欧思想と対決して哲学的問題を根本的に徹底的に追及した論考である。西田の自覚的体系の形式によってすべての実在を考え、哲学の重要な問題と思われる価値と存在、意味と事実との結合を説明しようとした。全集2に収録。

キワート

純粹経験 西田哲学の根本的な概念で、自己が対象を認識する前の直接の経験を言う。思惟、物体現象や精神現象、神などすべてを説明するために西田が禅から洞察を得て考えた第一原理である。真の実在(真理)を理解する出発点として、疑っても疑いようのない経験を内容とする。場所 『善の研究』以来、西田が、悪戦苦闘してきた、主客二項図式の克服という課題の、論理的解明の糸口が明らかになったのは、我と非我との対立を内に包み、意識現象を内に成立せしめるものとしての「場所」の立場に到達したことによってであった。その概念は、直観と思惟の最も深い結合根拠であり、「形なきものの形を見、声なきものの声を聞く」東洋的文化の根底に哲学的な根拠を与えたものとして、多くの共感を集めた。

レポート 戦後の食うや食わずの時に、虚脱の時代の心のよりどころとして、信仰的な図書と並んで哲学的な著作が売れてベストセラーになった。西田幾多郎全集もそのひとつで、1947年に発売される前夜、一ツ橋の岩波書店の前に徹夜の行列がつづき、注目を集めた。

神奈川 1928年に58歳で京都大学定年退官した西田は、居を鎌倉に移し、以後は夏と冬は鎌倉で過ごし、春と秋は京都で過ごした。17年間の鎌倉時代にも4回にわたり引っ越したが、七里ガ浜に居を落ち着けた。遺邸は、1977年4月に西田幾多郎博士記念館として、短期間ではあるが教授を務めた学習院の寸心荘として教職員、学生等が研究、研修会、ゼミナール等の目的で利用するために使用されている。死後に遺骨は3分され、故郷の宇ノ気町長楽寺、京都の妙心寺及び鎌倉東慶寺に埋葬された。

最期 1945年(昭和20)終戦直前の6月7日に死去。享年75歳。



Great Works 13

西田幾多郎全集 全19巻 岩波書店 1947~1989 <121.9/3>

解説 1947~1953年に初版12巻及び別巻4巻が刊行され、1965~1966年全19巻増補改訂版刊行、1978~1980年増補改訂第三版全19巻と、3期にわたり刊行された。全面的な改訂を施した新版全22巻

が 2002 年 11 月より岩波書店から刊行され始め、現在継続中である。

内容

- 1 善の研究[弘道館 1911 年]、思索と体験[千章館 1915 年]
- 2 自覚における直観と反省[岩波書店 1917 年]
- 3 意志の問題[岩波書店 1919 年]、芸術と道徳[岩波書店 1923 年] ドイツの哲学者フィヒテに似た一種の主意主義の立場に立って、知情意の区別及び関係等の問題を論じ、また芸術や道徳の対象界及びその相互の関係等を論じた。
- 4 働くものから見るものへ[岩波書店 1927 年 場所の論理を展開した。「『善の研究』以来の思索がここに到って巨大な飛躍的展開を遂げ、一つの究極点に到達した。』]
- 5 一般者の自覚的体系[岩波書店 1930 年]
- 6 無の自覚的限定[岩波書店 1932 年]
- 7 哲学の根本問題[岩波書店 1933 年]、哲学の根本問題 / 続編[岩波書店 1934 年]
- 8 哲学論文集 / 1 哲学体系への企図、[岩波書店 1935 年] 哲学論文集 / 2 [岩波書店 1937 年]
- 9 哲学論文集 / 3 [[岩波書店 1939 年]]
- 10 哲学論文集 / 4 [岩波書店 1941 年]、哲学論文集 / 5 [岩波書店 1944 年]
- 11 哲学論文集 / 6 [岩波書店 1945 年]、哲学論文集 / 7 [岩波書店 1946 年]
- 12 思索と体験 / 続[岩波書店 1937 年]、「続思索と体験」以後[岩波書店 1948 年]
日本文化の問題[岩波書店 岩波新書]
- 13 小篇・ノート グリーン氏倫理学の大意 [「教育時評」第 362,363,364 号 明治 38 年] ヒューム氏以前の哲学の発達 人心の疑惑 [第四高等学校校友会「北辰会雑誌」第 39 号 明治 36 年] 他
- 14 講演筆記 [現代に於ける理想主義の哲学 大正 5 年京都大学学生課主催の特別講演 大正 6 年 弘道館より刊行 信濃哲学会のための講演 昭和一四年「哲学の基礎問題」信濃哲学会 宗教の立場 大正 8 年龍谷大学 エックハルトの神秘説と一燈園生活 生と実在の論理 1932 年 1 月京都大学において講演 第 2 版の全集に初めて収載] 他
- 15 講義 哲学概論 [1910 ~ 1928 年までの京都大学における講義] 宗教学 [1913 ~ 1914 年の 1 年間京都大学文科大学哲学科の宗教学講座における講義筆記]
- 16 初期草稿 英国倫理学史 心理学講義 倫理学草案 純粹経験に関する断章(未発表の遺稿) [京都の故人宅に保存されていたものを点検し収載したもの] 我尊会有翼文稿、不成文会有翼草稿 [この 2 編は第四高等学校の前身である第 4 高等中学校在学中に級友の間で作られた会で 有翼生は西田の筆名] Spinoza's Conception of God [鈴木大拙の手元から発見され第 3 版ではじめて収載された]
- 17 日記 [1897 ~ 1945 年]
- 18 書簡集 / 1 [1888 ~ 1937 年]
- 19 書簡集 / 2 [1938 ~ 1945 年] 西田幾多郎年譜 西田幾多郎全集総目録 補遺

参考文献 ~この人をもっと知るために~

- 📖 西田幾多郎の憂鬱 / 小林敏明著
岩波書店 2003 年 321 p <121.63MM / 11> 資料番号 21605027
- 📖 西田哲学と現代 / 小坂国継著
ミネルヴァ書房 2001 年 271 p <121.63LL / 7> 資料番号 21449657
- 📖 現代思想としての西田幾多郎(講談社メチエ 138) / 藤田正勝著
講談社 1998 年 228p <121.63GG / 3> 資料番号 21077417
- 📖 現代の問いとしての西田哲学 / 新田義弘著
岩波書店 1998 年 235p <121.63GG / 4> 資料番号 21077417
- 📖 西田幾多郎—その哲学体系 1 ~ 4 / 末木剛博著
春秋社 1983,1987,1988 年 4 冊 <121.9 / 141 / 1 ~ 4>
資料番号 12301479,12301487,12301495,12301503
- 📖 西田幾多郎(20世紀思想家文庫) / 中村雄二郎著
岩波書店 1983 年 265 p <121.9 / 139> 資料番号 12301453
- 📖 西田幾多郎(中公叢書) / 竹田篤司著
中央公論社 1979 年 478p <H121 / T1> 資料番号 70375530
- 📖 祖父西田幾多郎 正・続 / 上田久著
南窓社 1978 年・1983 年 220p・284 p <121.9K / 115> 資料番号 10202562,10202570
- 📖 西田幾多郎(U P 選書) / 竹内良知著
東京大学出版会 1970 年 6,294 p <121.9 / 64> 資料番号 10201606